

< 介護・医療連携推進会議における評価_様式例 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	株式会社 太陽メディケアサービス	事業所名	メッツ川崎ヘルパーステーション
所在地	(〒 940-0864) 新潟県長岡市川崎2丁目2478番地1		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

- ・一体型のメリットを活かし、介護看護の連携・情報共有を強化し、その方の有する能力に応じた日常生活を営むことができるようケアサービスを行う。
- ・関係機関や家族と、電話やメールでの報告・連絡・相談を早く正確に行い、つながりを重要視している。
- ・ICT化の進行、オンラインツールを活用した多様性とスピード性のある情報連携を行っている。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2020 年 11 月 30 日	従業者等自己評価 実施人数	(17) 人	※管理者を含む
----------------	---------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2021 年 3 月 10 日	出席人数(合計)	(9) 人	※自事業所職員を含む
出席者(内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員 (3 人) <input type="checkbox"/> 市町村職員 (1 人) 地域包括支援センター職員 (1 人) <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者 (1 人) <input type="checkbox"/> 利用者 (0 人) <input type="checkbox"/> 利用者の家族 (1 人) <input type="checkbox"/> 知見を有する者 (2 人) <input type="checkbox"/> その他 (0 人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き理念を意識できるよう職員へ働きかける。 ・介護医療連携推進会議に他職員の出席を促す。 ・事業所内研修を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内研修はオペレーターの役割や対応方法、地域包括ケアシステムの理解を全職員対象に実施した。 ・記録の ICT 化の進行、オンラインでのグループチャットの活用にて迅速で円滑な意見交換が図られた。 	<p>理念や制度理解は、多くの職員が共有することでサービス向上につながる。繰り返してほしい。</p> <p>ICT の活用を進めていることは評価できる。活用方法を深めて、より良いサービス提供に努めてほしい。</p>	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内研修を充実させる。 ・引き続き法人内研修に出席する。 ・新規入職者への研修を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内研修は I のとおり ・法人内研修は研修項目を増やし、職員個々に立てた目標にそって必要な研修を受講させている。 ・新規職員用の共通の研修カリキュラムを作成している。 	<p>介護と看護の協力体制のもと、看取り対応を行えていることは評価できる。</p> <p>随時対応の分析を行い、モニタリング・情報共有・計画反映が適切に行われるよう努めてほしい。</p> <p>計画作成者以外の職員も計画内容が説明できるようになるとよい。</p>
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)	<ul style="list-style-type: none"> ・回覧板で回って来る地域情報を必要に応じて利用者へ発信周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティへの参加はコロナ渦にて思うように実施はできていない。 ・日々の記録が充実してきたことで、モニタリングやケアマネへの報告が詳細化してきている。また、状態変化があった際には、ケアマネや家族への報告を行い、グループチャットを活用しての変更情報の周知が行えた。 	<p>地域にサービス提供を行っていく上で地域情報を把握することは重要。</p> <p>効果的なサービス提供を行うためにも多職種の連携に力を入れてほしい。</p> <p>サービス担当者会議での意見交換などを有効に生かせるとよい。</p>
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目)	<ul style="list-style-type: none"> ・川崎 2 丁目以外の民生委員へ出席を働き掛けていく。 ・広報を作成し、定期巡回サービスの周 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状民生委員の参加は川崎 2 丁目の方のみ。コロナ渦で開催が中止となったこともあり、呼びかけは見送った 	<p>オンラインでの会議開催など、コロナ禍の状況変化に対応できる仕組み構築を迅速に進めてほしい。</p>

	目 28～32)	知を図っていく。	・広報誌（チラシ）を新たに作成し、営業活動に使用した。	PR方法を工夫し、他事業所のケアマネにも理解してもらえるよう努めてほしい。
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 33～34)		・利用者一人ひとりが目標に近づいているかどうか、職員間で共有し利用者の要望も伺いながらサービスの提供を行う。	・タイムリーな意見交換から即対応へとつながっている。 ・随時対応件数が増えており、分析を進めている。 ・体の痛み等苦痛がある方には、苦痛が和らげるよう、他のサービス利用を含め、見直しを行った。また、認知症のある方や在宅独居の方には、こまめに対応してもらえる、24時間つながる対応ことは安心につながっていると考えている。	介護・医療の一体的な支援で、利用者の生活の質が上がるように継続して行ってほしい。

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	理念や制度理解が進んできているため、全職員が理解できるように、会議や研修方法を工夫し取り組む必要がある。	ウェブやリモートなども活用しながら、全職員が理解できるまで続けていく。	
Ⅱ. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)	一体型の強みを活かし、介護と看護の協力体制にて、医療ニーズや看取りのニーズなど幅広く対応できるよう努める。 日々の記録をしっかりと行い、モニタリングやカンファレンス、計画作成に反映をさせる。	日々の記録を時系列的に情報整理し、検討の上計画作成に反映をさせる。 職員の気づきや利用者の変化について、迅速に共有できるようICT活用を進める。機能のアップデートを管理する担当を決め、機能を有効に活用する。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22)	地域のインフォーマルサービスの把握をすることが必要。	地域の広報誌などで地域情報について調べる。 担当者会議などで多職種との情報交換を行う。

	～27)		
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 28～32)	定期巡回サービスの認知度を高めていく活動を行い、サービスが必要な方で情報が届かないと、拡大にはつながらない。	ウェブで動画配信やリモート形式での PR 活動も実施する。
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 33～34)		介護と医療一体のサービスで、利用者の生活の質が向上する。	介護と看護による定期随時サービスを行う。多職種と協力しながら利用者と家族が安心して生活できるよう支援する。

※自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します